

参-1 淀川水系瀬田川の現状説明 (淀川水系河川整備計画の検討)

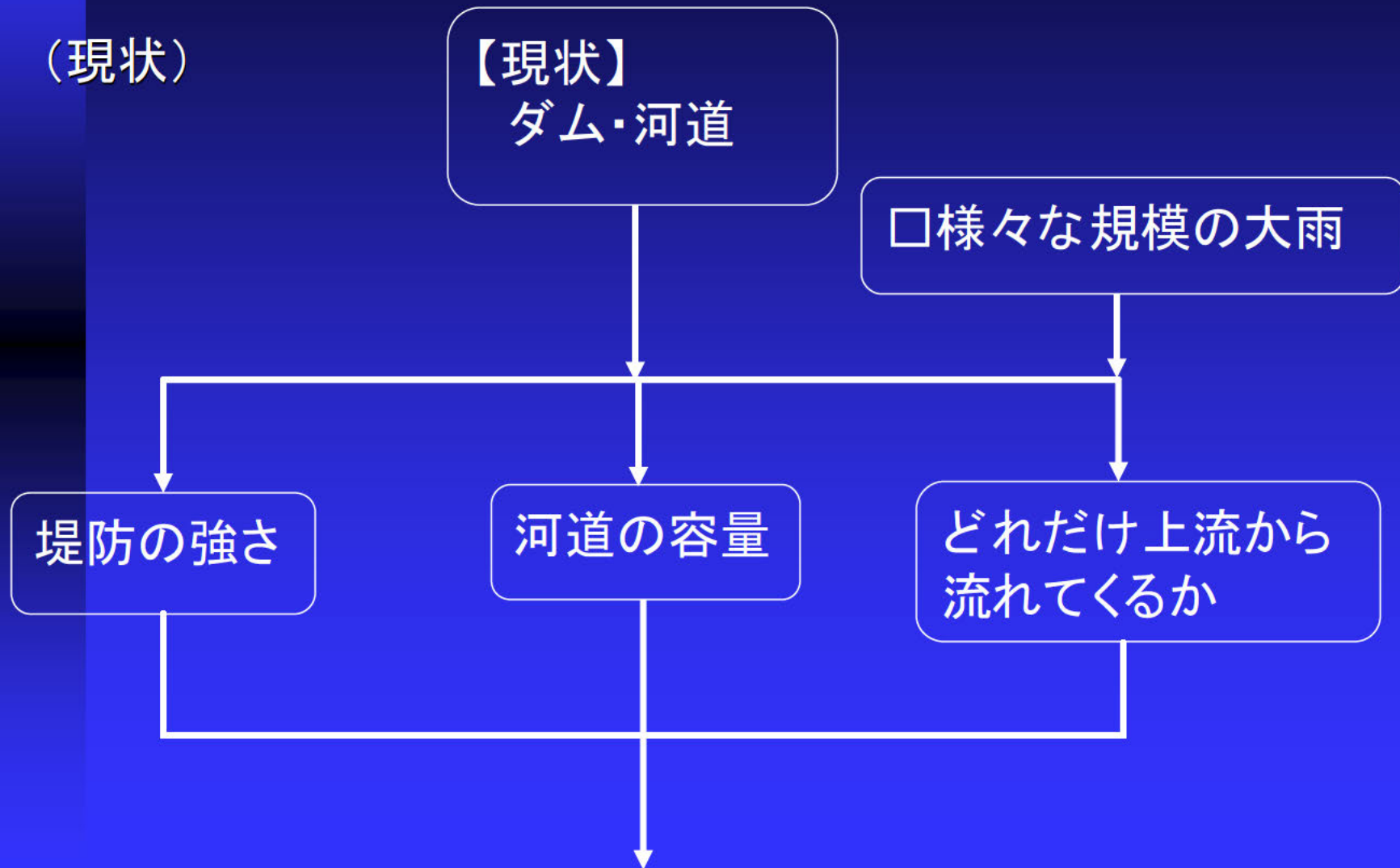
参1.1 災害の発生の防止又は軽減に関する事項

参1.2 河川環境の整備と保全に関する事項

参1.1 災害の発生の防止 又は軽減に関する事項

整備計画策定の流れ

(現状)



(課題)

【何が起こるか】
溢水、破堤、
氾濫頻度、深刻さ

(対応)

【何をするか】
効果
社会・自然環境への影響

(集約)

河川整備計画

第1節 瀬田川・琵琶湖を取り巻く 社会環境等

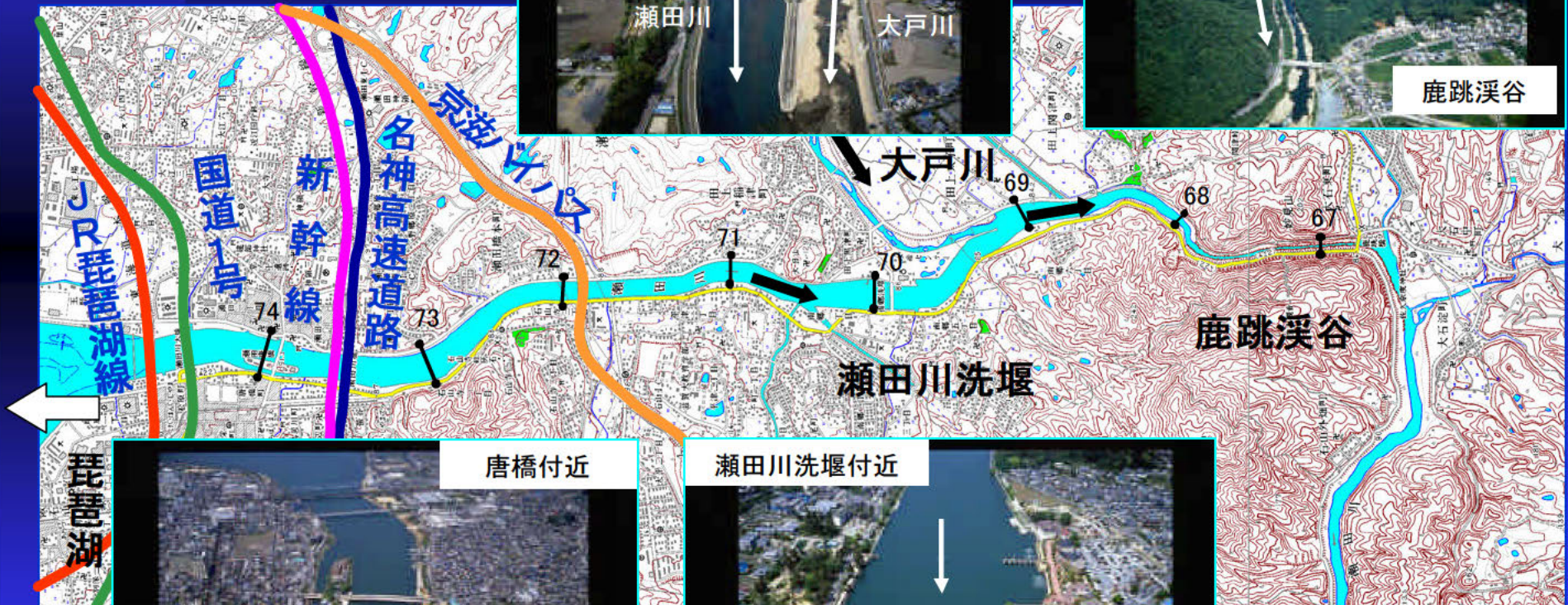
1. 瀬田川の河川概要



1. 瀬田川の河川概要

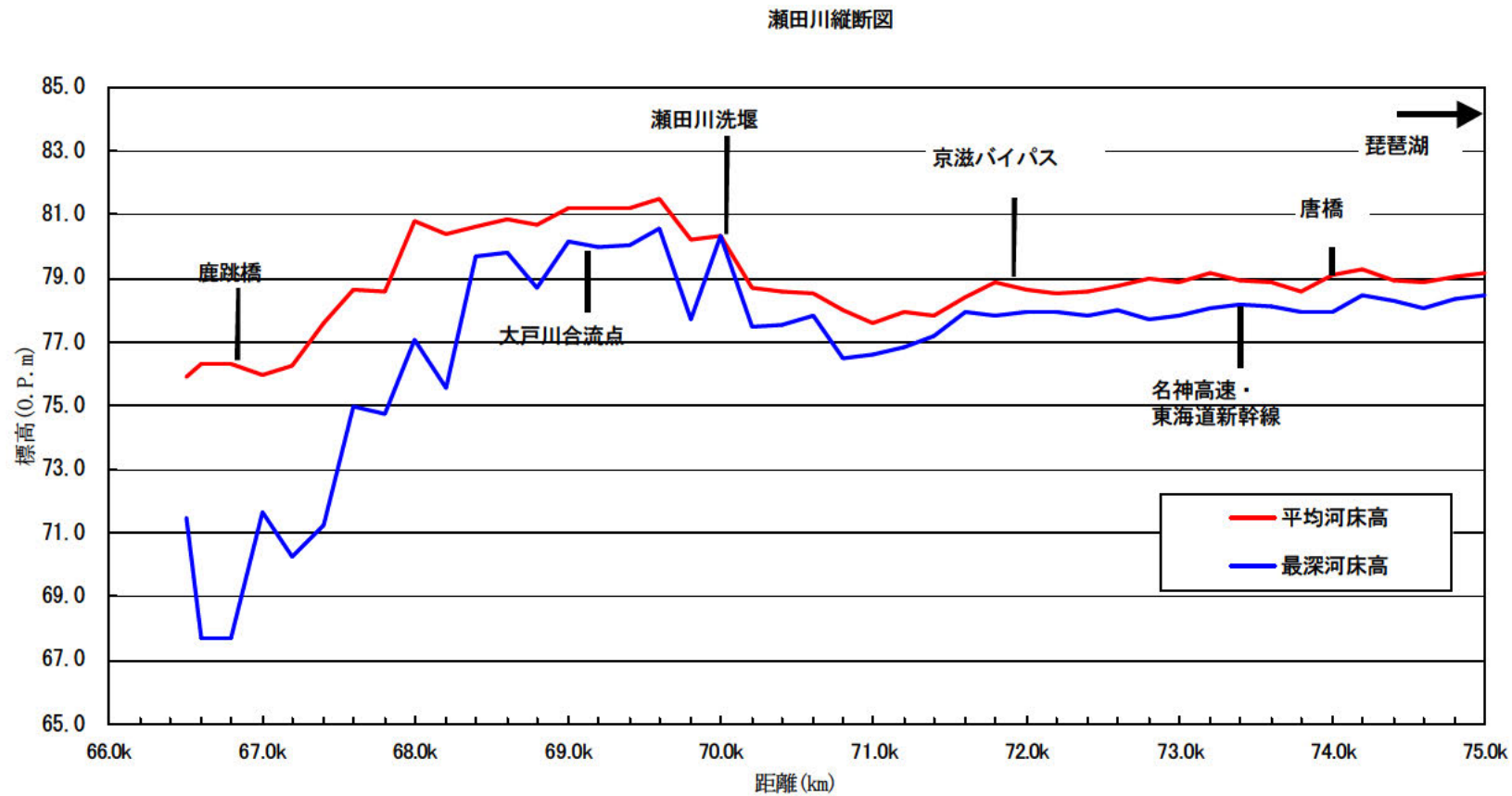
- 琵琶湖から流れ出る唯一の河川です。
(琵琶湖流入河川120本、流出河川1本)
- 中流部に瀬田川洗堰があります。
- 中流部で大戸川が合流します。
- 下流部には鹿跳溪谷があり、狭窄部をなしています。

1. 瀬田川の河川概要



1. 瀬田川の河川概要

■ 瀬田川河床縦断面図

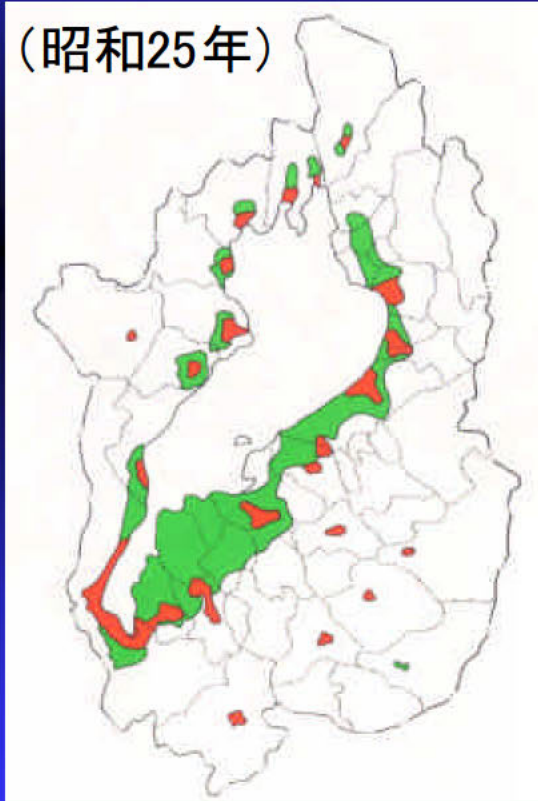


1. 瀬田川の河川概要

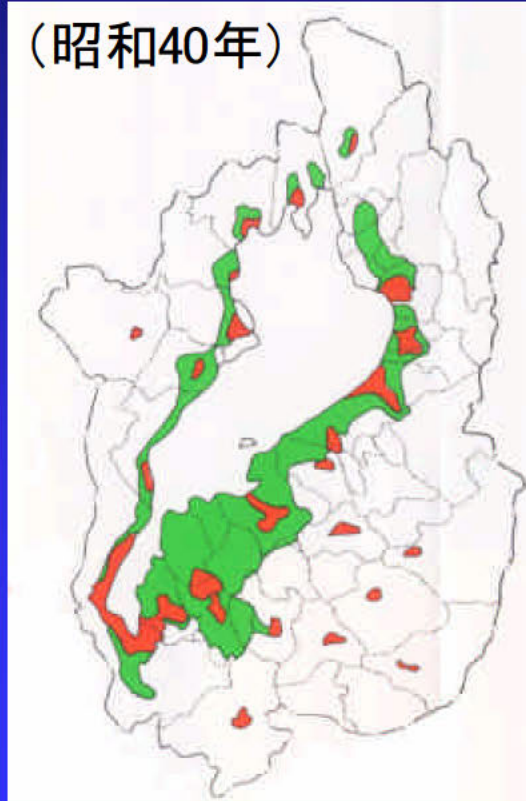
■ 土地利用の変遷

記号	名称
	市街地
	農用地
	山林

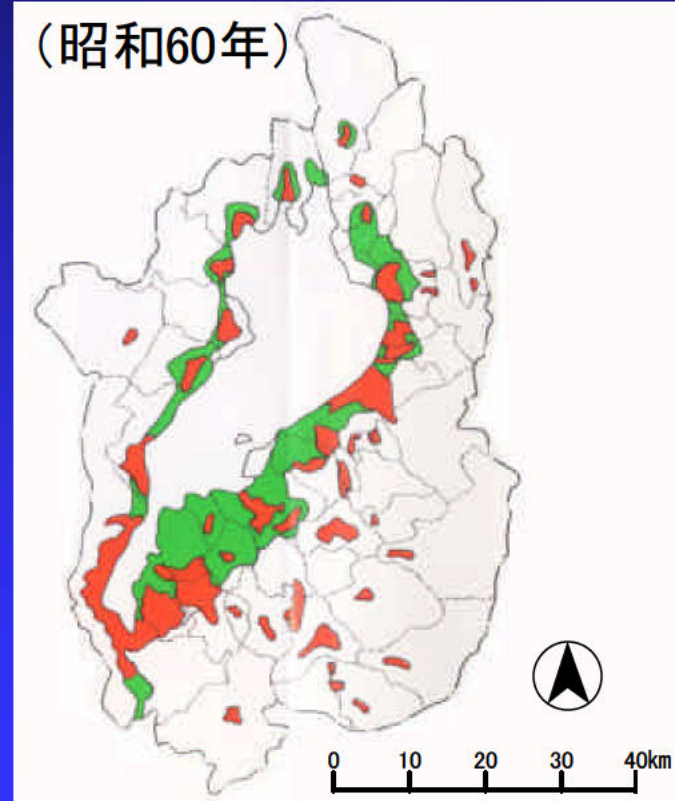
(昭和25年)



(昭和40年)



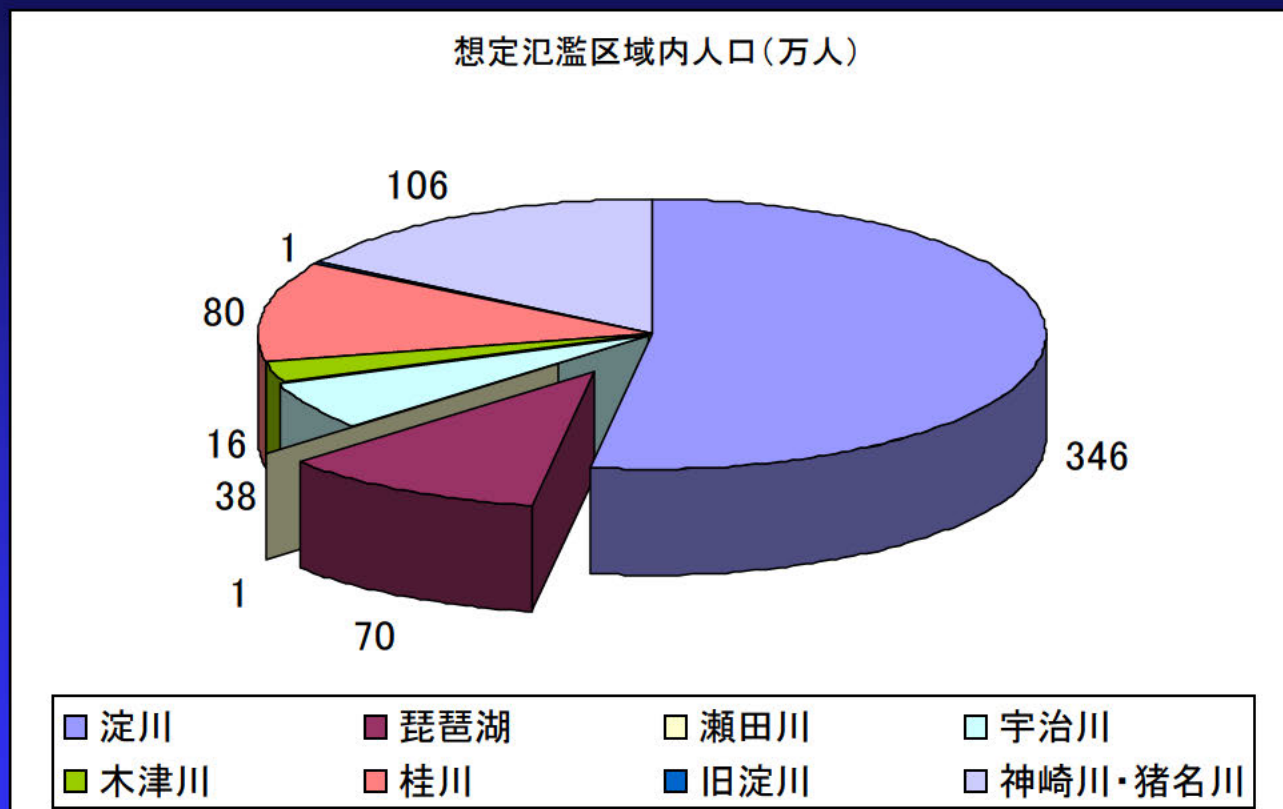
(昭和60年)



出典: 淀川水系環境管理基本計画(H2.3)

2. 琵琶湖・瀬田川を取り巻く社会環境

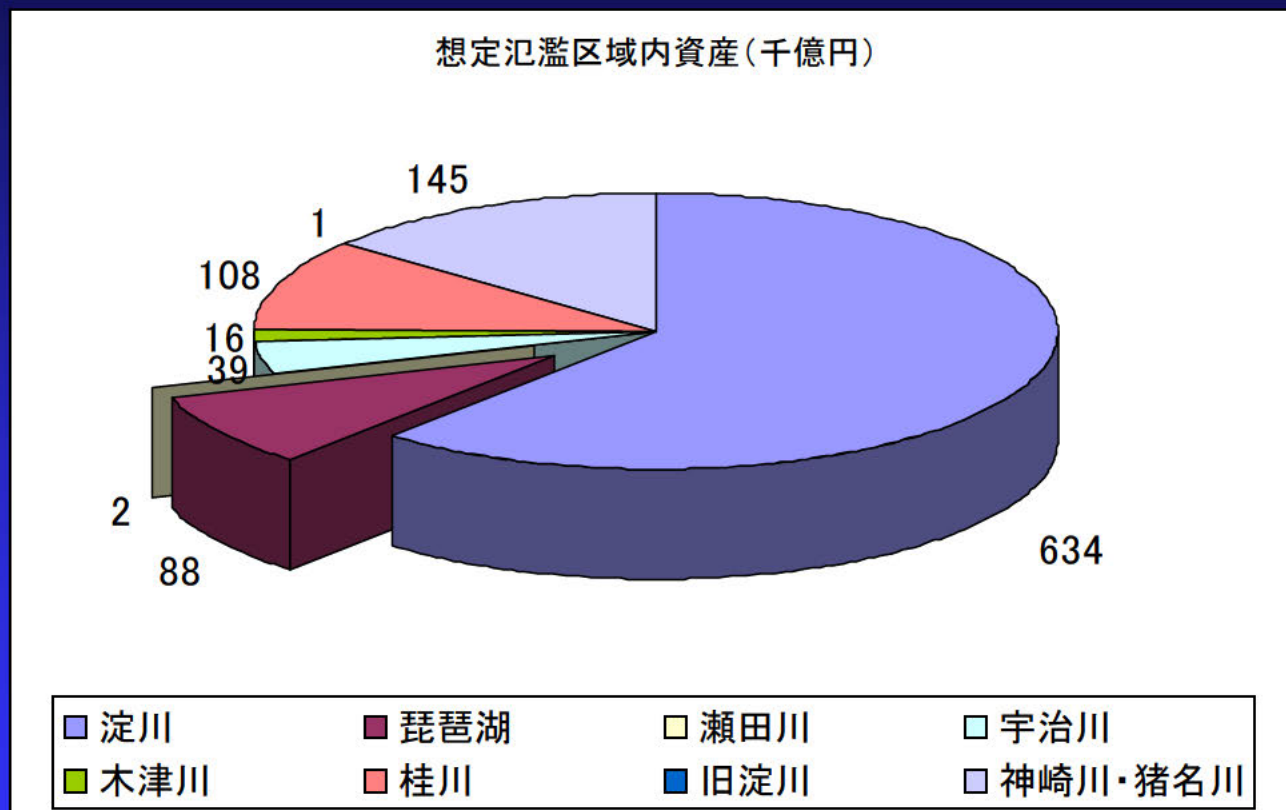
2.1 想定氾濫区域内の人口



- 氾濫区域内人口は約71万人であり、淀川水系氾濫区域内人口の約10%を占めています。

2. 琵琶湖・瀬田川を取り巻く社会環境

2.2 想定氾濫区域内の資産



- 氾濫区域内の資産額は約9兆円であり、淀川水系氾濫区域内の資産額の約9%を占めています。

3. 治水の歴史

- 明治29年未曾有の大洪水が発生

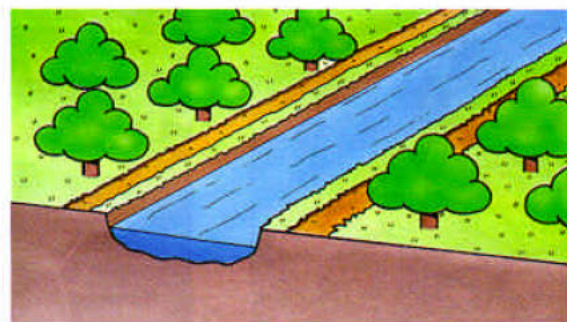
琵琶湖水位は3.76mに達し、琵琶湖周辺は約2万8千戸の家屋と約1万6千haを超える範囲が浸水して浸水日数は237日に及びました。



3. 治水の歴史

■ なぜ洪水がおきるのか

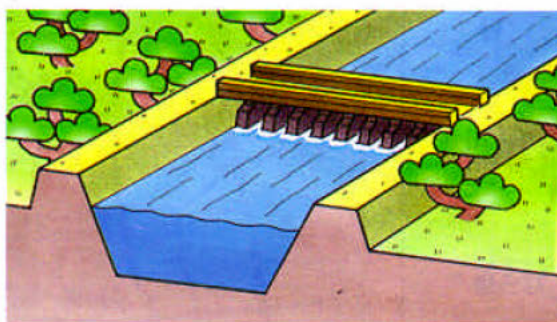
琵琶湖には120本の一級河川が流れ込んでおり、大洪水では流入量が毎秒10,000m³程度に達します。出て行く川は瀬田川だけであり、琵琶湖から流せる水量は、現在毎秒700m³(琵琶湖水位 0m時)程度です。



洗堰設置前

1908年以前

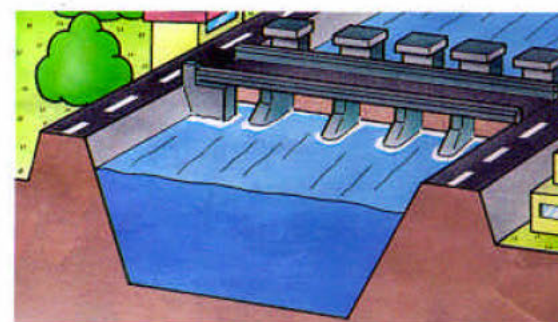
毎秒 50m³



洗堰設置後

1908～1952年

毎秒 200m³



淀川河水統制
第1期事業後

1953～1967年

毎秒 400m³

淀川水系改修
基本計画後

1968～1991年

毎秒 600m³

琵琶湖総合開
発後

1992年から現在

毎秒 700m³

3. 治水の歴史

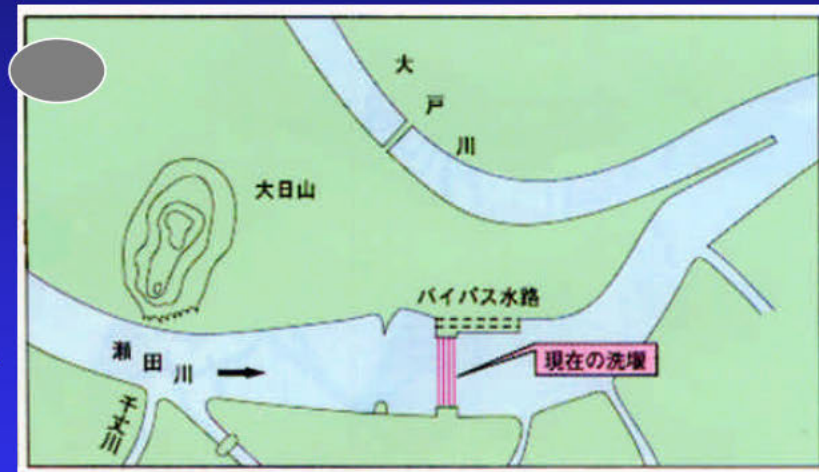
■ 先人が取り組んだこと

明治29年の
未曾有の大
洪水がきっ
かけ



●明治改修前の瀬田川地形図

瀬田川は、大日山の狭窄部、大戸川の流出土砂の堆積のために、流れが悪い状況でした。



●現在の瀬田川地形図

大日山の切り取り(明治34年)、瀬田川の浚渫、大戸川の付替え(昭和27年)、旧洗堰の築造(明治36年)、幾度の洪水の経験から現在の洗堰(昭和36年)へ改築が行われました。

3. 治水の歴史

琵琶湖水位変動実績

